

第 37 回仙台市中小企業活性化会議要旨

I 会議要旨

1. 開催日時

令和 7 年 3 月 27 日（木）16：00～17：30

2. 開催場所

仙台市役所本庁舎 8 階 第四委員会室

II. 議事

1. 開会

○（事務局）経済企画課企画調整係長

- ・皆様、本日はご多用のところお集まりをいただきまして、誠にありがとうございます。定刻となりましたので、第 37 回仙台市中小企業活性化会議を開催いたします。司会を担当いたします、経済企画課の鹿中でございます。よろしくお願いいたします。
- ・開会に先立ちまして、会議の成立についてでございます。お二方が遅れていらっしゃる予定とお伺いしておりますので、10 名ご出席いただく予定でございます。過半数を超えておりますので、本会議規則第三条第二項の規定による定足数を満たしておりますことをご報告いたします。

2. 市長挨拶

○（事務局）経済企画課企画調整係長

- ・それでは、開会にあたりまして、市長の郡よりご挨拶申し上げます。

○郡市長

- ・年度末のお忙しい中お集まりいただき、本当にありがとうございます。現メンバーでの本会議の開催も今回が最終回ということになりました。日頃より本市経済施策をはじめ、様々な点にご理解、ご協力を賜っておりますことに深く感謝を申し上げますとともに、この間活発なご議論をいただきましたことに改めて感謝を申し上げます。
- ・今回の委員の皆様にご就任いただいた 2023 年は、長かったコロナ禍を経て、ようやく社会経済活動が通常に戻りつつあった中でございました。一方で、物価高騰など企業の皆様の置かれた立場は、厳しさが依然として横たわっていたと理解しております。
- ・この間、人手不足や賃上げなどへの対応が迫られる中、委員の皆様には、地元企業の変革や持続的な成長のための施策について、様々なご議論をいただいております。頂戴したご

意見は、昨年3月に策定した、本市の経済施策の指針である「仙台経済COMPASS」にも色濃く反映をいたしまして、地域中核企業輩出支援などの新たな施策の中に息づいております。

- ・また、今年度の議論を通じて頂戴した、企業の「人材確保と売上拡大の両立」という視点は、令和7年度より展開してまいります「UIJターン」や「ダイバーシティ経営促進」など、新たな施策立案の大きなヒントとなりました。御礼申し上げます。
- ・本日は、この2年間の振り返りや、令和7年度に予定している取り組みを踏まえて、今後の地域経済の発展に向けたメッセージ、エールを頂戴できればありがたいと考えているところです。
- ・仙台、東北が持続的に発展し続けるためには、これまでにない視点からの挑戦が必要となります。新たな活力を呼び込み、生み出す変革を促しながら、この先行きが不透明な状況を、仙台に関わる皆様と共に乗り越えていきたいと考えております。
- ・本日が最終回となりますが、地域経済や中小企業の現状を踏まえた視点から、今後につながる活発なご議論を賜りたいと存じますので、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます、私からの挨拶といたします。

○（事務局）経済企画課企画調整係長

- ・続きましてお手元の資料についてご確認をお願いいたします。
- ・本会議は公開となっており、議事録作成のために、議事内容を録音しておりますことをご了承願います。また、公表に先立ちまして、議事録につきまして、会長とともに1名の委員に内容の確認をお願いしており、今回は、委員の五十音順で千葉委員にお願いしたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。
- ・それでは会議の進行を議長であります福嶋会長をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

○福嶋会長

- ・最初に会議の進め方について、事務局よりご説明をお願いいたします。

○（事務局）経済企画課長

（次第に基づき説明）

○福嶋会長

- ・事務局より説明がありました会議の進め方について、何かご意見のある方はいらっしゃいますか。

- ・ないようですので、このまま進めさせていただきたいと思います。

3. 議論

- ・令和5～6年度の会議の振り返りと令和7年度の主な取り組みについて

○福島会長

- ・では、資料1について事務局から説明をお願いいたします。

○（事務局）経済企画課長

- ・（資料1に基づき説明）

○福島会長

- ・ありがとうございました。事務局から説明がありましたが、今日が最後の会議となります。これまでもご議論させていただきましたが、今まで言えなかったことなど、率直に忌憚の無いご意見をいただければと思います。それでは、中嶋委員から順々にお話いただければと思います。よろしく申し上げます。

○中嶋委員

- ・2年間ありがとうございました。弊社はソフトウェアの開発や施設のリノベーションをしており、都市整備局や区役所ともやり取りをしておりますが、仙台市には大変気持ちよく支援をいただいています。今回の資料も素晴らしい内容と感じています。
- ・ただし細かいところでは、ソフトウェア業界からみると実情と合っているかと思う部分もあります。業界団体の理事の立場から意見を言うと、ソフトウェア業界としては仙台工業高等学校への情報科新設は素晴らしい取り組みだと思います。プラス2年の専攻科が設立されるかどうかは決まっていないと伺っていますが、是非設立してもらいたいと考えています。
- ・ソフトウェア業界の売上は、色々な契約形態がありますが人単位です。売上の計算が今までは例えば月70万だったものが、今は80～90万に上昇してきており、首都圏に近づいていると言われています。
- ・ソフトウェア業界では地域の売上を上げようと思えば、当たり前の話ですがエンジニアの人数を増やすしかありません。今までソフトウェアエンジニアリングに興味を持たなかった学生に対してアピールしていくことが取り組みとして考えられます。学生にIT業界に目を向けさせることが効率的と考えていますので、仙台市は引き続き力を入れてほしいです。

○千葉委員

- ・ 2年間非常に勉強させていただきました。若者と向き合うというより、企業の経営者と向き合う仕事が多いので、広い視点で地域を考える機会になりました。
- ・ 人材に関してマーケティング的な視点で振り返ると、応募者・求職者をお客様のようという話もありましたが、変化しているところでは、若者たちは楽しい職場よりも、成長できる職場を探し始めていると感じています。
- ・ 当社に入社した新人たちも、最初は給与面であったり、労働時間であったりを重視しておりましたが、最近は仕事の質、自分が成長できるかどうかを詳しく聞いてくるシチュエーションが出てきておりますので、成長できる職場かどうか重要視されてきています。
- ・ コストとして考えるとかなり負担ですが、会社が人材に対してノウハウであったり学べる環境を提供できない会社がこの地域は多いと感じております。
- ・ 私たちがここをクリアする方向としては、企業の定着と逆行してますが、フリーランスになるプロ人材がかなり増えてます。例えば飲食業界ですと、シェフの皆さんが専属のホテルだけでは食べていけないということで、フリーランスで色々な飲食店のコンサルであったり、外注で色々なメニューを作ったり、イベントで調理をしたりすることが増えていきます。
- ・ こういった人材は、今まで10年20年しないと教えてくれないような人たちが、若い人たちにも率直に、これからの業界についてストレートに話します。会社の上司が話すよりもよっぽど聞きます。生々しくリアルで、自分たちの何十年後かイメージできるので、そういった人材との交流が非常に有効と感じています。いかにオープンで、成長できる最先端の環境を作るかが、地方の企業に求められてくると感じています。
- ・ 会議の中で、仙台ならではのモデルという話をしましたが、私達がやっているレストランは、コロナ禍で大変な時期もありましたが、去年11月で過去最高の売上になりまして、今も成長している状況です。物価高もありますが実際あまり影響受けていません。
- ・ なぜかという、産地と近く、農家と直接取引をしておりますので、例えば米で言うと値上げ幅も数十円しか上がっていません。おそらく東京等の産地と遠い店舗では難しいです。私たちは二次加工の工場を建設中ですが、ゆくゆくは一次を含め自分たちでやっていくと、様々な面で課題が解決できると思っています。
- ・ 東北、仙台で起業する意味を考えたときに、地方のアドバンテージは、土地の安さであったり、産地との近さであったり、様々な面があるだろうと感じております。
- ・ これまで若者にフォーカスして話をしてきましたが、ベースである中小企業のイノベーションに対するフォーカスも必要と思っています。
- ・ 環境の変化とか、受入れる覚悟が必要です。補助金で経営改善しませんかということではなく、完全に方向性を変えるぐらいの変革を経営に求めていく時代になってきていると思いますので、これまでの支援制度ではない新しい向き合い方が必要と思います。以上です。

○田口委員

- ・ 2年間ありがとうございます。私は普段、データ処理等のデスクワークが中心ですが、経営者の生の声を聞かせていただく機会をいただいたと思っておりますし、特に今回のメンバーの方からは刺激的なお話をお伺いできました。
- ・ 私からは去年の3月テーマに挙げていただいた「国際化」と「仙台らしさの再発見」についてお話したいと思います。
- ・ まず1点目の国際化ですが、人口の視点から重要だと思っております。仙台市が2022年11月に公表された将来推計人口では、2028年110.1万人をピークにその後減少という試算でしたが、蓋を開けてみると昨年の速報ですと出生数が計画から2割下振れしているということと、2024年の宮城県を除く他の都道府県との転出超過であり、男性も女性も初めてということで、自然減、社会減とともに人口問題がやや先行している中で早めに手を打つべきだと思います。
- ・ 海外に行ってすぐにビジネスが成り立つというほど甘いものではないと思いますので、経験値の蓄積が必要なので着手を早くしなければならない一方で、これも仙台市が4月に調査した海外販路拡大に取り組む企業が6.3%、6月に調査したインバウンドの取り込みに取り組んでいる企業が7.6%ということで、最大のリスクは危機意識の薄さではないかと感じております。
- ・ 進んでいない理由として以前の会議でも話しましたが、4点あります。1つはブルーオーシャンより馴染みのあるレッドオーシャンの方が良いということで、現状維持バイアスが強いので、背中を押す政策が必要だと思います。
- ・ 2つ目は、中小企業が単独で海外でやっていけるほど甘くないので、何らかの形で連携して取り組むということです。分かっているけど連携が上手くいっていないというのはなぜかを深掘りしてく必要があると思います。
- ・ 最近、生産性向上とか付加価値向上という話がありますが、「安いのが良い、サービスは無料」といったような長年の商習慣、ノルムを変えていく必要があると思います。
- ・ 労働者は「ただの働く人」というより、生きた人間として受け入れるということ、文化や慣習なども合わせて受け入れる必要があるということ、この4点を打開して国際化を進めていかなければならないと思っています。
- ・ 行政が危機感を煽るのは難しいのかもしれませんが、やはり人口減少のペースを考えたときには、もう一刻の猶予も無いと思います。
- ・ 2点目は逆行するような話ですが、仙台魅力の再発見ということで、石破政権では「地方創生2.0」を掲げて「楽しい日本」を目指すといった話がありました。施政方針演説でも、3割ぐらい楽しい日本に触れており、この苦しいときに楽しい日本とは何事だと失笑を買ったのですが、実は地方創生の中の最大のポイントを突かれたのではないかと思います。

- ・地方にはヒトモノカネ情報等の様々なリソースが不足していますが、一番欠けているのは楽しさなのではないかと感じています。楽しいところには人が集まると。同じ地方中核都市の中でも、仙台と福岡の差を見れば歴然としていると感じており、これは福岡が何か皆さんを楽しませる、楽しさを醸し出しているのではないのかと感じております。
- ・楽しさは主観的なので非常に難しいですが、例えば仙台への通勤族の方と話をする機会があるのですが、仙台の評判を聞くと概ね好評、非常に好印象です。聞いてみると「生活がしやすい、暮らしやすい、自然が豊か、ゴルフ場が近い、食べ物おいしい、年間を通じて気候が良い」と、仙台自体が楽しいという話をあまり聞いたことがありません。仙台が楽しくないわけではないですけれども、仙台にあまり楽しさを感じていないのかなど。
- ・これについて仮説を3つ考えております。一点目は、支店経済なので特色ある地元企業が少ないということです。あまり仙台らしさ、楽しさを感じられないのではという点です。
- ・2点目は、地理的な東京との近さです。拡大首都圏と言ってもいいのですが、楽しさは東京に行けば良いと。楽しもうと思ったらゴルフや温泉に行けば良いと。仙台には別に不満もないし求めているので、供給も出てこないのではと思います。
- ・3点目は、仙台が東北・宮城の中で一強なので、ヒトモノカネが仙台に集中していて、東北の他都市との競争が生じないので、努力しなくても栄える仙台圏と努力しても敵わない地域の間に分断ができ、努力するインセンティブが削がれているのではないかとということです。
- ・いずれにしても、仙台を通勤族から見て楽しいと言わせるところが出てきていないということだと思います。楽しさ不足は悪循環の起点にもなり得ると思っております、楽しくないから出ていってますます楽しくなくなると、どこかで防がなければいけないと思っております。
- ・楽しさは主観的なので難しいので、この楔を打つために「希望が叶う、自由がある、選択肢がある」が大事だと思っております、試行錯誤とリスク許容度を引き上げて、地元投資者が真剣に楽しむ熱意と本気度が問われているのではないかと感じています。仙台が楽しいと言われるように、企業活動や政策の中に、楽しさという尺度を入れていく必要があると思っております。

○高橋委員

- ・楽しさは私も2つあると思います。1つは「心理的に楽しいと思えない」。儲かってないので可処分所得が上がらず、楽しむにしてもXやInstagramの情報ばかりが入ってきますが、昔は全然情報が無いし、街中で遊んでも楽しかったと思います。
- ・もう1つは「ハード」です。宮城県は実は色々な公園施設があります。石巻、名取、南三陸、角田にありますが仙台は全然ないです。作れと言うわけではないですけれども、ハードを作るのは、実は皆さんが思っているほどそんなに高くないです。心理的なものが今の楽しさで

- あるならば、遊具で楽しさは満たされませんが、解決してと皆さん言います。解決策ではありませんが、仙台市くらいの人口規模であれば当然土地が高いことは分かりますけれども、大規模な公園施設が各区に1つずつぐらいあっても誰もノーという施策ではないと思います。
- 社会課題は民間が解決すべきという意味を結構強く持っています。小さい政府ではないですけども、行政と民間は市民であるとか、その先の市場・マーケットを一緒に矢印で見るからこそ、お互いが一緒に進んでいけるとと思います。ベクトルがその先の市民とかではなくて、それぞれが違っていると感じます。
 - 当社は創業以来三方よしと言っていて、社会も我々も良いことを企業側はやる責任がありますし、そうしないとその場限りで儲かっても企業は続きません。
 - 社会課題は民間が汗をかいて色々なノウハウを考え出すと。それでも解決できない余白を行政一緒にやりませんかという、もっと行政側に対してこうしたいという話をできてないことが課題だと思っています。我々も反省しなければならないと思っています。
 - これに気付いたのは、社会起業家プログラムに8年ぐらい前に参加した時です。当時仙台市が初めて社会起業家という言葉を使っていて、社会課題は民間のビジネスモデルで解決すべきだというもので、1期生で参加しました。
 - 当時は公園の課題についてプレゼンをしましたが、以前はそこを考えてなくて、きっかけを仙台市が与えてくれたことで、まだまだ経営者は伸びると思っています。経営者がもっと伸びなければ、企業成長はないと。選ばれ続けるまちをつくるには、若者に選ばれ続ける企業がなければならないと。その企業はどうやって作るかという経営者が磨かれなければならないと。
 - 年始に賀詞交換会に行くと、壇上から見ていて、若手経営者が少ないと思います。何年も前から行っていますが、私は40歳ですが、ほぼ同年代がいません。その上の層でビジネスが回っていて、同年代の層が薄いのが仙台ですので、自分ごとで社会から捉えて、自分のノウハウや資金を使ってどう解決するかを後押しするようなものがあればもっとビジネスは地元で加速すると思っています。
 - 私はなるべく仙台市側の施策と寄り添うようにやっていきたいと思っています。今だったら、中企庁と直接会話して例えば100億企業創出であれば、青森、秋田、岩手、宮城、仙台、岩沼の中堅企業も集めたグルーピングもすでにしています。
 - 変化が早いので、ビジネスチャンスを的確に捉えて、行政がやろうとしている仕組みをしっかりと使ってやってくという、経営者がもっと頑張らなければならないと2年間ずっと議論を聞いていて刺激をもらったと思います。
 - 民間でできないことと言えば、行政からの依怙最良なので、健康経営優良法人を実は7、8年前から取っています。「ブライト500」という中小企業の中で全国500社しかいない制度に認定されている1社なので依怙最良して欲しいです。優先発注などで依怙最良しなければ、

フェアじゃないと思っているので、変えられるところは、ぜひやっていただきたいと思います。

- ・最後に、どの事業も対話的な機会が少ないので、仕様書があつて「はいどうぞ」と進みますが、どうしたら我々が一緒に歩み寄れる場所かという余白が大きいので、都市整備局も経済局ももっとオープンに民間と対話的に議論して、施策を作っていくプロセスをやっても良いと思います。
- ・議論をして政策を作っていくことが全然後ろ向きじゃないですし、もっと皆さんがやりやすいように、対話的に作っていくことをやりたいと思います。
- ・良い会社がたくさんいて、そういった人たちがへそを曲げないように応援していただければ、私ももっと頑張ろうと思います。以上です。

○神部副会長

- ・今回委員を拝命しまして、色々良い機会になりましたありがとうございます。御礼を申し上げます。
- ・銀行に入りまして、50年近くやっておりましたので、地域への恩返しという思いでやらせていただきました。
- ・高橋委員がおっしゃった楽しさという部分から入りますけども、これから仙台市内で再開発が出てくると思いますが、その中で例えばアーバンスポーツのできる場所とか、ボルダリング、スケートボード、トランポリンとかちょっとしたスペースでできるものもあります。
- ・友達と来ますし、お父さんお母さんと来るといことで、様々なジェネレーションの交流にも繋がるし、商店街を活性化させる1つの要素にもなると思っております。
- ・私は地方銀行にいたので、地域の持続性を強めて活性化することが課題だと思ってやっておりました。
- ・ヒトモノカネ情報が集まる企業であり、地域であるというのがコンセプトとして一番大事だと思っております。いわゆる磁石というか、磁力になるものを担当者が常々考えていくことだと思ひますし、千葉委員がおっしゃったちょっとした気づきで、何でもないものが一貫したプロセスを踏むことで化ける話もありますから、宝探しと言ひますか、宝を探す、見つける、作るといった視線での取り組みも必要だと思ひます。
- ・宝が何だといふと、地域で存在価値を高めている会社もありますし、技術力に優れているとか、他ではできないとか、いわゆる差別化が徹底できるものが考えられます。またコンテンツとして、アニメとかイベント、スポーツなど、オンリーワンの要素をどれだけ地域の中に取り込めるかが大事だと思ひます。そういう意味ではナノテラスや卓越大も、今後地域の活性化を考える上で、活用していくべきだと思ひます。
- ・また、市長が尽力されている防災面も、仙台市は貴重な経験もしているのです、しっかり受け

とめてPRしていく話とっております。

- ・私の経験をお話すると、トヨタ自動車の移転の場に立ち会いました。当時は七十七銀行の東京支店におりまして、セントラル自動車が大衡村に移転する時でございました。私も相模原の本社に出向きました。最初は何しに来たという表情で、非常にネガティブでございました。言葉は悪いですが、村になんて行きたくないとか、田んぼ1枚クラウンと同じ値段じゃないかという捉え方をされまして、非常に大変だと思いました。
- ・地域の情報を持続的に提供していく中で自然に距離は縮まってきました、土地を探して欲しいという話になりまして、どのくらいの住宅土地が必要かと聞くと、先方が30坪ぐらいかと言われました。そんな土地ありません、当時の仙台は60~70坪ぐらいが普通のサイズだと思うと返しましたが、それから目の色が変わりました。自分の人生設計の倍が買えるという話になって、医療や教育やアウトドアの色々な活用の仕方も聞いてもらえるようになりました。
- ・当時はゴルフが結構盛んでしたが、1日ばかりで時間もお金もかかるという中で、仙台はゴルフに良いとなりまして、徐々に食べ物もおいしいということで評価が高まってきました。私が代わる中で挨拶に行ったら、来てよかったというような話になりました。
- ・何を言いたいかというと、日経に実質賃金から考える地方創生というコラムがございまして、名目では絶対東京に負けるので、住み心地の良さも含めてトータルでどれだけ浸透してPRできるかがやはり地方に人を呼び込む1つの側面ではないかという話がありましたので、今後どれだけ色々な形でPRしていくかが大事だと思った次第です。以上でございます。

○加藤委員

- ・2年間会議に参加させていただきましてありがとうございます。私も色々な業種の経営者の方々と意見交換ができたのは貴重な経験になったとっております。
- ・まずスタートアップ支援のお話をさせていただきます。仙台市は先進的な取り組みをされていると感じておりまして、グローバルスタートアップというハブが開設されたり、色々な取り組みをされております。
- ・一方で地方のスタートアップはまだ成功事例が少ない状況で、スタートアップが成長するために必要な知見がまだ十分に蓄積されていないので、仙台から成功事例を作り上げて知見を生かしながら地域のスタートアップエコシステムを生み出していく必要があると感じております。
- ・東北大のスタートアップでも最近はいくつか成長している企業も出てきておりますので、そういった方から情報を吸い上げて必要な支援を行える体制づくりをぜひお願いしたいと思っております。
- ・自分たちも今後成長企業の一員になれるように取り組んでいるところですので、ぜひご支援を引き続きよろしく申し上げます。

- ・次に、東北大学が国際卓越大学に選ばれたとことが大きな出来事の1つだと思います。この中で、スタートアップも今後25年間で1500社まで増加する計画が言われており、1年当たり60社増えていく計算になります。去年の数字で約200社ですから、とてつもない大きな数字だと考えておまして、全ての企業が仙台に拠点を置くとは限りませんが、今後仙台市でスタートアップが増えていくことが予想されると考えております。
- ・これに対しては大きく2つありまして、1つは大学発スタートアップの経営者人材の不足です。あとはウェットラボなどの研究施設の不足が予想されると思っています。施策の中にウェットラボの整備モデル創出がありますので、来年以降取り組まれると期待をしております。
- ・私の会社は「東北大学連携ビジネスインキュベーター」という施設に入居し、仙台市の補助等も含め十分活用させていただいている状況ですが、ほぼ満室状態が続いております。新しいスタートアップが入る余地が全くないと感じているところです。現時点でもかなりラボの需要はあると感じています。
- ・また、これまであまりお話してこなかったところをお話ししようと思っております。当社はスタートアップの中でも、社長も技術開発者の大学の教授も女性という、レアなスタートアップだと思っております。高度女性人材の活用にも力を入れております。
- ・私自身は、大学で仙台に始めて来まして6年間過ごしました。その後東京に就職しまして、夫が宮城に住んでいるので結婚して子どもが生まれた後にまた仙台に戻ってきました。
- ・夫の仕事の関係で仙台に来たという話はよく聞きますが、まだまだ職場を見つけられずに眠っている人材であると感じているところです。そういった人材を掘り起こしていくことも、労働人口の確保に繋がっていくと思います。
- ・仙台は子育てがしやすい都市だと実感としております。教育、子育て支援、スポーツ、娯楽など東北の地域の中では断トツに環境が良いと感じております。茨城の田舎出身なので、自分の子どもの頃と自分の子どもを見ると、明らかに恵まれていると感じています。そういった強みはぜひ活かしていただき、さらに魅力ある仙台市に発展させていただければと思っております。
- ・高橋委員から公園の話が出たので、私も子どもを育てるときによく公園に行っています。家の周りには小さい地域の公園が歩いていけるところに5〜6個あり恵まれた場所で、ありがたいと思っています。
- ・大きい公園という話もありましたが、よく利用させていただいたのは交通公園です。かなり小さい頃から行っておりまして、補助輪が無くても乗れるようになるということも交通公園でやらせていただいたので、すごく良い公園だと思っています。
- ・子どもが大きくなってくると、小さい公園だけではなくアスレチックができるような大きい公園もニーズとしては出てくるとは思いますが、小さい頃は地元の公園が大事だと思いますので、小さい公園にもぜひ目を向けていただけると良いと思いました。

○高橋委員

- ・補足ですが、バイパスの方の公園の指定管理を何年か当社でやっています。
- ・公園に人がかなり来ますが公共の施設なので何も売っていけないし、パーク PFI の制度の中で検討はしている状況です。
- ・小さい公園は、百年の杜推進課も考えていて、年配の方向け、何も置かない、子育て向けであるとか、エリアの中で機能分担ができればという話はしています。
- ・行政ではストックの管理ができなくなるので、例えばまとまって泉区全体としての管理とまとめると、民間で投資できます。パーク PFI のような大きい公園の管理もそうですけど、小さな集合体をまとめるということは、集会所も言えるかもしれませんが、行政コストをかけることなく住民サービスが実現できるのではないかと思います。

○加藤委員

- ・交通公園の自転車がボロボロで、錆びて年季の入ったものを職員が修理しながらずっと使っているのを見ておりまして、100 円でも良いので取ったら良いと思います。お金を払ってでも来る人はいっぱいいるのではないかと思います。

○長内委員

- ・2年間、皆様お疲れ様です。普段お会いしたことがない業種の方にお会いできて、どんなことを考えて仕事をしているか知れた良い機会でした。
- ・私の役割は、たまたま 10 年近く経済局と一緒に仕事をさせていただいていたので、どちらかというと経済局をディスる発言が多くあったと思います。強い言い方になってしまい申し訳なかったと思いつつ、愛情とと思っていただけたらと思います。
- ・商店街を歩いてみると、コロナもありましたけれども、空室が最近また増えているという印象を持ちます。若い人はもう全然借りられないくらい家賃が高いままで、不動産の問題で、おそらく県外の企業が持っているので下がらないという定説があるようです。
- ・若い人はチャンスが巡ってこないと言いますか、最近美容室に行って「アーケードやばいよね」といった話をしましたが、最近自分の周りで店を出そうという人は、むしろアーケードに出すのはダサいと話をされていて、実際そうだと思います。
- ・もちろん裏手通りで良いお店ができていく一方で、外から来た客は寂れている印象を与えてしまいますし、仙台駅前の「さくら野」がそのままという考えられない状況がもうしばらく続くので、一刻も早く市からも促したほうが良いと一市民として思います。
- ・施策は裏で動いてるし、お金も動いていますが、見てわかりやすい変化がそろそろ求められる時期なのではないかと思います。
- ・私自身はここ数年色々疲れて、あまり生産的な活動をしておりませんでした。韓国人の小

説家の方と Podcast を始めました。2週間に1回、日本語で更新しています。彼女が1年間東北大学の交換留学で来たことがあり、日本語が話せます。小説も2冊ほど日本でも出版されていますが、映画の話とかドラマの軽い話もすれば政治の話もしますが、話題に必ず仙台所縁の何かが出きます。

- ・「この有名な人が仙台に所縁があった」とか、歴史上の人物とかにも仙台に所縁があったりします。意外と住んでいても知らなかったと思いますし、掘り起こせば仙台の魅力を伝える出来事がたくさんあると思います。
- ・皆さんご存じなこととしては、「ハイキュー!!」とか、アニメの有名な方が仙台出身というのはありますが、ファンの方は聖地巡りをすると思います。これらを伝えればもっと人が来るのではないかと素朴に思いました。
- ・何回か言い続けましたけども、この会議は経済局の会議なので、どうしても経済局の中の話になりますが、経済だけで考える時代ではなく、文化とか観光のコンテンツと一緒に作っていく、考えていく時代だと思います。文化観光局の方がいらっしゃるか分かりませんが、分かりやすいアニメとか以外にも、もう少し経済のプログラムに人文知を入れることが必要だと思います。
- ・先週、メディアテークの鷺田館長が退任されるということでトークイベントがあって私も参加させていただきました。震災から今年14年目ですが、心の問題に向き合う時間があって、それをどう持続させるかという時に、住んでいる人だけでなく外の力を借りながら、記録とか記憶を継続させていく、繋げていく活動が仙台には求められていると思います。
- ・これから音楽ホールができてメモリアルの機能を持たせるということですけども、前回の会議でも言いましたが、チャンスだと思うのでしっかりと経済施策と一緒に考えていただきたいというのが、一市民の思いです。2年間、ありがとうございました。

○一戸委員

- ・2年間大変お世話になりましたありがとうございました。
- ・私は新卒で当会に入会しまして、わがままな中小企業経営者しか知らないです。1000名以上の社長と歩んできた1人として発言をさせていただきますが、1つ分かるのは人口が減っていくことです。実は序章に過ぎず、今後は多分4倍ぐらいのスピードで進んでいきます。
- ・当会でも会員企業の新入社員を集めて合同の入社式研修会を何十年もやっていますが、今までは100名を超え、会社代表も合わせると200名を超えていて、4月1日から3日まで研修をやっています。今年はずいに新入社員が30名ぐらいで、半分とか3分の1になってきて、いよいよ現象としてはっきり表れるようになってきました。そのくらい中小企業が人を採れない状況であるという現状の確認が1つです。
- ・そういう中で、賃金の水準や休みの問題はどんどんゴールポストが上がっていて、自助努力

で突破できるフェーズなのかを見なければいけないと思っています。大きな話になりますけど地域経済そのものや日本経済そのものを、本当違う視点から見ないと本当についていけるのか、というのが正直な実感です。

- ・そういった中で、頑張っって中小企業は賃上げをしています、また問題があつて、社員にとっては実感が無い賃上げになっています。自分たちが頑張った結果、獲得した賃上げになつておらず、経営者側が防衛的な賃上げをしている状況にあるのも事実かと思ひます。
- ・経営者が良い会社を作りたいと思つているのと同時に、社員も良い人生を送りたいと考えていることを前提とすると、社員が自分の人生の岐路に立つたときに、この会社で働き続けるかを本気で考える訳です。その時に、自分の会社で働き続けてもらえる何かがあるかどうかをもう1回見直さなければいけないと思ひます。
- ・副業や転職が当たり前になつている中、社内でも人と人の踏み込みが弱くなつてきているとか、触りづらくなつています。変なことを言うと辞められるのではないか、それが売上に直結するというループの中にいるので、もう一度会社の事業計画と社員の人生が、どう結びついているかを見ていく必要があると思ひます。
- ・日経新聞や色々なマスコミを見ても、全体的な流れが中堅企業育成重視の論調です。例えば、100億企業やハブ企業を作らしようという論調ですが、はたして今の経済構造の中で中堅企業がバンバン生まれる状況にあるのかを考えると、大量生産・大量消費の中で良いものを安く売るという中において中堅企業が生まれてきた背景なので、ここから生まれていくのかという疑問も持ちます。
- ・労働生産性を指標とするのではなく、いかに高く売っていくかという付加価値を指標にしていくことが大事で、地域に100億の企業を1社作るよりも売上1億の企業を100社作る、売上1億の企業を1億1000万にする企業を100社作る方が、地域にとって豊かだと思ひます。
- ・施策を見ると階層に分けて支援していく流れになつていきますので大いに賛成ですが、そういう視点も大事かと思ひます。大変お世話になりました。ありがとうございました。

○高橋委員

- ・今の意見に賛成です。中堅企業は増えていかないはずで、ロールアップしなければいけません。中小企業経営者は自分で来年5億やると言つても良いし、10億やると言つても良いし、1億1000万と言つても良いです。
- ・昔は物を欲していた時代なので作れば売れましたが、今はダウントレンドなので、作つても売れません。株で言つたら空売りから入れるかという議論と一緒に、そつちに合わせないとなつると、皆さんおっしゃつた通り単価を上げるしかないと思ひます。
- ・一方で、中堅企業の100億は割と良いと思ひます。中企庁とも議論しましたが、国も不安で「100億と言つると周りから言われるよ」と言つていたので「大丈夫ですよ」と言つてきまし

たが、ここを目指さないと、施策が小さくなってしまいます。

- 300 人も従業員を超えるのは難しいので、中堅企業になれませんでした。売上 100 億であれば考えればできると思います。経営者として、100 億を目指すロジックは考えないとできないと思います。
- 10 億～20 億であれば少し頑張ればできますが、100 億はちゃんと向き合って考えなければいけないので、面白いです。私にとっては楽しさだと思っています。楽しさを後押しするように一緒にやってもらえると良いと思います。
- 私も本来は 1 億 100 社で良いタイプですが、最近メンターから唆されたので、最近は「100 億、100 億」と言うようにして、自分自身にプレッシャーをかけています。
- 100 億支援したいパッケージと 1 億 1000 万を支援したいパッケージが全く違うと思います。レイヤーが分かると経済施策が打ちやすくなるので、ぜひみんなでチャレンジしたら面白いと思います。

○羽山委員

- 改めまして 2 年間ありがとうございます。この 2 年で皆様とのご縁をいただけたこと、色々な知見をいただけたことが本当に財産だと思っています。ありがとうございます。
- 私は人事という観点で色々な企業とコミュニケーションをとる中で、この 2 年で採用できないというヒリヒリ感がまた一段増したとを感じる日々です。さらに加速することが間違いないとっていて、ここをどう突破していくかはまだ出ない答えですけども、皆様と引き続き模索をしたいと思っています。
- 仙台らしさという話が先ほどからあって、ビジョンを掲げて皆が一致団結していくことが大切と思っています。その中で、楽しいまちも良いなと思いますし、私は「幸せに働けるまち仙台」を目指せると良いと思っています。先週、東北ウェルビーイングカンファレンスが行われましたが、宮城・仙台はウェルビーイングで幸せのまちだというブランドにできると良いと勝手に妄想しております。
- 「子育てが楽しいまち仙台」は郡市長がよくおっしゃられるところで、仙台子ども財団の理事もやらせていただいています。この 2 年で大学を卒業した思い入れのある女性たちがこぞって東京とか海外に出ていくのを頬を濡らしながら見送ることが続いてまして、仙台は選ばれていないと思います。
- 一方で、10 年前とかに見送った方たちがそろそろ子どもを産もうかというライフステージのチェンジに来ているタイミングで、東京だと物価が高くて子どもを産めないと言っていて、稼いでも稼いでも子どもが産める気がしないし、産めても 1 人だと言います。
- だけれども、仙台には帰ってくれない。なぜなら魅力的な仕事がないのが理由で、そのループから抜けられないと思っています。

- ・違う話として仙台出身で東京の企業に勤めている 40 代の方がUターンしようと転職活動をしたとき、いくつかのエージェントに登録したところ、40 代で仙台の企業で 1000 万の年収を稼げる企業は 2 社しかないと言われて、とてもじゃないけど戻ってこれないという話をされました。戻りたいけど戻れない、稼げない、をどうにかしなければならぬと思っています。
- ・もう一つ、企業側に働き方の多様性を増やす覚悟の醸成が足りないと思います。例えば、育児期の女性が働くと考えたときに、どうしてもフルタイムで 2 人、3 人の子どもを育てながらフルタイムは無理だと思います。だけれども、まだフルタイムの正社員で、在宅は無理で出勤して欲しいと言われてしまいます。もう少しDXを進めればと思いますが、進まないのが突破口になると良いと思います。
- ・企業側のマインド、経営者のマインドをチェンジしながら魅力的な選ばれる企業を増やしていくのが物凄く大切だと思います。選べる企業が増えて、働きがいを感じられる企業が増えると選ばれる地域になっていくと思います。
- ・女性が大学を出て、この地で働きたいと思える企業を増やす。もしくは東京に出てキャリアを積んだ女性が戻ってきたいと思える働ける企業を増やせるかは、私の新たなチャレンジとしてスタートアップ支援課にもサポートいただきながら、高橋委員がチャレンジされている社会課題を解決する部分で、今回の「ボーダーレス・ジャパン」に伴走いただきながら女性が社会復帰に向かっていくことを仙台でやっていきたいと思っています。
- ・仙台が幸せに働けるまち、中でも女性が輝きながら働けるまちをどう作っていけるかは面白いチャレンジだと思っています。ありがとうございました。

○長内委員

- ・地方都市は東京に比べて、会社の中で女性の地位が低いとか、昇進できないとか、給料が安いといういわゆる昔ながらの気質が、特に中小企業はどうやっても東京よりはまだ残っていると思いますが、そのことが女性が定着しないとか、首都圏の大企業を目指す理由になっていますか。

○羽山委員

- ・なっています。

○長内委員

- ・この会議でなかなかジェンダーの話ができていませんが、中小企業の方に本当に教育が必要だと思っていて、私も長く卸町のお仕事をしてましたが、私若くないですけど「この小娘が」と言われたことがあります。傷つくタイプではないけども、どうしても窮屈に感じることはあります。

- ・この会議はジェンダーバランスを守られていて、市長は女性ですが市の事務局側も男性が多いです。経済局は少ないと思います。本当は女性が入ることで違う風が吹くとか新しいアイディアがあると思います。あまり話せてこなかったのは残念なので、ぜひ今後そういったイシューも取り上げていただけたらと思います。

○郡市長

- ・大変有益な率直な忌憚りの無いご意見をいただき、大変ありがとうございました。皆さんの思いの丈をいただきました。この2年間、本当に活発なご議論いただきましたし、最終回の今日も刺激的なお話が多かったと思います。
- ・最後のジェンダーの視点での話が少なかったということは全くおっしゃられた通りだと反省しなければいけないと思います。
- ・今回ダイバーシティをあらゆる施策に据えるということで、取り組みを進めることとし、経済政策についても同じように進めたいと考えているところです。ジェンダード・イノベーションを進めると話をしておりますけれども、皆様方の内面に潜む性役割分担と言いますか、性差に対しての考え方をどのように克服していくかは議論の俎上にも上がってきませんでしたので、認識を新たに持ってもらうような施策・広報に力を入れなくてはならないと思ったところです。
- ・いずれにせよ、人口減少が急速に進む中で仙台が選ばれるために何が必要か多くの意見を出していただきましたので、私どもも大いに刺激を受けながら、新年度もねじり鉢巻きで取り組んで参りたいと思います。本当にありがとうございました。

○福嶋会長

- ・今期2年間の総括でございますが、私は実はもう2年前からやっており、その頃はコロナがあってDXを議論していて、この2年間は人に焦点を当てておりました。
- ・今日ご議論があった通り、中小企業は人手不足に困っている反面、他方でコンプライアンスや賃上げなど、色々な問題を抱えています。社会の意識も変わっていて、ダイバーシティ、ジェンダーバランスも進んでいて、昨日の常識が今日の常識ではなくなるのが当たり前になっています。
- ・そういった中で政策を考えなければならない時代にあることは、仙台市も理解していると思いますが、かつて上手くいった政策がそのまま上手くいくかは分からないので、常識を疑う政策を考えていく必要があると思います。
- ・都市間競争と言われ、仙台は東北の中でリーディング都市であることは間違いないですし、日本の中でもリーディング都市であることは間違いないですが、仙台市だけが良ければ良いという「利己」ではなく「利他」の部分を政策として持っていただきたいと思います。全

国・全世界レベルの話になるかもしれませんが、忘れないで欲しいと思います。

- ・これから色々時代の変化があったときに、変化が大きいほど犠牲者が出る、傷つく人とか、倒産する企業も出てくると思いますが、セーフティーネットも政策として入れていただきたいというのが個人的な意見となります。
- ・皆さんのご協力によりまして2年間大変実り多い議論ができたと思います。本当に厚く御礼申し上げます。

4. 閉会

○（事務局）経済企画課企画調整係長

- ・時間に限りもございましたことから、皆様方より熱いお言葉頂戴しておりましたけれども、発言ができなかったという場合には配布をいたしました様式により、4月7日までにご提出をいただければ幸いです。書面によりいただいたご意見につきましても会議中のご意見として取り扱わせていただきたいと思います。
- ・それでは以上をもちまして、第37回仙台市中小企業活性化会議を閉会とさせていただきます。2年間誠にありがとうございました。